株式会社 〇〇〇〇 御中

ご発注者名:

000 00000 00000 殿

試験対象件名:

○○○橋 はく離試験調査

鋼構造物用水系塗膜は<離剤 『バイオハクリX-WB』工法

塗膜はく離試験結果報告書(例)

平成28年6月1日



〒110-0005 東京都台東区上野 1-10-12 (商工中金·第一生命上野t ル10階)

TEL 03-3835-8660

FAX 03-3835-1128

鋼構造物用水系塗膜はく離剤「バイオハクリX-WB」工法 塗膜はく離試験計画書

1. 塗膜剥離試験の目的 山一化学工業株式会社

鋼道路橋の既存塗膜への「バイオハクリX-WB 工法」の適性を確認する。

2. 概要

① 試験対象工事名	000 00000 0000) ○ 殿				
	○○橋は〈離試験調査					
② 試験実施日	平成28年5月31日(火) ~ 6月	1日(水) (2日間])			
③ 試験(測定)内容	バイオハクリX-WB工法 適性	評価試験				
※ はく離試験実施時の着用保護具	実施項目			目的		
[着用目的]	① 既存塗膜厚測定・塗膜	構成の確認	バイオハクリXーW	/B 1回の塗付で除去可能な対象膜厚は 約500μm		
有害物質含有塗膜(PCB、鉛など)の			剥がしにくい塗	を膜、剥がせない塗膜、黒皮の有無を確認。		
はく離作業時、作業場外への拡散逸散防止	② バイオハクリX-WB 塗作	1	標準塗付量 1.	.0kg/㎡ 他、適性塗付量確認のため		
および 塗膜はく離剤塗付作業時(刷毛塗り)			上記①確認内	容から任意の塗付量を塗付し評価する。		
作業者保護目的のため下記保護具を着用の	③ 塗膜膨潤・軟化状態の研	雀認	ハ [*] イオハクリX−W	/B 塗付後、24時間以上経過後、手工具		
上、作業を実施する。	塗膜はく離作業実施		(皮スキ、刃付スケルーハー)で剥離可能であるか確認する。			
・保護メガネ			塗膜が軟化している事を確認した後、剥離作業を行う。			
•保護手袋			十分に軟化し	こ軟化していない場合:軟化養生時間を延長する。		
・有機溶剤用マスク、防塵マスク	④ 塗膜はく離除去状態の	准認	残存塗膜厚の	厚の測定 および バイオハクリX-WBによる		
•全身化学防護服			塗膜はく離作	離作業の終了状態を確認する。		
·他、安全保護用具一式着用。	⑤ 気温、湿度測定		気温5℃以下/湿度85%以上/結露発生時は作業を中止する。			
④ 立会者 (発注者)	000 00000			連絡先: 〇〇〇〇〇〇〇 〇-〇〇〇		
	主	任 0000) 氏	TEL:(123) 456-7890 内線:123		
	主	主任 0000				
⑤ 立会者(試験受注会社)	株式会社〇〇〇〇	式会社〇〇〇〇		連絡先: 〇〇〇〇〇〇〇 〇-〇〇〇		
	技術部 部	技術部 部長 〇〇〇〇		TEL:(123) 456-7890 内線:123		
	地質調査部 課	長 0000) 氏			
⑥ 実施者 (塗膜はく離剤製造会社)	山一化学工業株式会社			連絡先: 東京都台東区上野1-10-12 10階		
	剥離事業部 次:	長 石井達第	₹	TEL:(03) 3835-8660		

3. 工程

〇〇様 はく離討論調査

OO債 は、無政府調宜					
作業工程	平成28年5月31日(火)	平成28年6月1日(水)	予備日	備 考	
作未上性 L	10 11 12 13 14 15	10 11 12 13 14 15	10 11 12 13 14 15	1 1用 考	
① 作業準備	+			試験箇所の養生 既存膜厚を測定	
② バイオハクリX-WB 塗付	•			塗付方法: はけ塗り	
③ 軟化養生時間の経過 (放置時間)	◆ (軟化養生時間 24年	→		塗膜軟化状態の経過観察・確認。	
④ 軟化塗膜のはく離作業		+		手工具:皮スキ、 刃付スクレーパーを使用。	
⑤ 廃棄物の回収・重量計測		•		除去した塗膜の回収 養生シートの回収。	

[※] バイオハクリX-WB工法 1工程: バイオハクリX-WB 塗付~既存塗膜への浸透軟化時間の経過~手工具による塗膜はく離除去~はく離した塗膜の回収。

[※] パイオハクリX-WB工法 1工程実施の結果、残存する塗膜がある場合、バイオハクリX-WB工法 2工程を実施する。

	試験箇所		5月31日(火)	6月1日(水)	予備日
		1	P1	J	
No. 1	鈑桁 腹板部	2	P2	J	
		3	P3	J	
		1	P1	J	
No. 2	鈑桁 下フランジ下面部	2	P2	J	
		3	Р3	J	
		1	P1	J	
No.3	鈑桁 継手部	2	P2	J	
		3	P3	J	
		1	P1	J	
No. 4	鈑桁 高欄部	2	P2	J	
		3	Р3	J	

【試験箇所 No.3】鈑桁 継手部

記号	項目
P1	塗付 (塗付量 1.0 kg/㎡)
P2	塗付 (塗付量 0.7 kg/㎡)
Р3	塗付 (塗付量 0.5 kg/㎡)
P4	塗付 (既存塗膜厚確認後塗付量設定)
J	軟化状態となった塗膜のはく離作業

塗膜はく離剤:バイオハクリX-WB

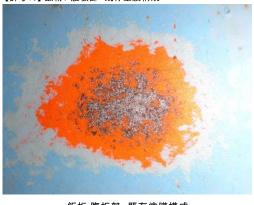
試験区画面積: 0.30m(H)×0.30m(W) = 0.09 m²

	Jm(H)×0.30m(W) = 0.09 m で更する場合があります。		
5. 塗装履歴			
① 架設年月	1978年3月(昭和53年)		
② 新設時塗装仕様	A塗装系(ブラスト鋼板~長ばく形エッチングフ	プライマー〜鉛丹さび止めペイント〜長油性フタル	酸樹脂塗料中塗~長油性フタル酸樹脂塗料上塗)
③ 前回塗替え年月	新設時から塗装塗替えなし		
④ 試験実施状況	[計写01]	【計写02】	[計写03] [1070年3月 [1070年3月 [1070年3月 [1070年3月 [1070年3月 [1070] [10
	〇〇橋 全景	〇〇橋 車道部	架橋年月:1978年3月(昭和53年)
	(計写04)	(計写05) 01004 153 146 137 11 12 ⁵ 7 145 137	[計写06]
	塗装記録表:新設時塗装仕様 A系 【計写07】	【試験箇所 No.1】 鈑桁 腹板部	【試験箇所 No.2】鈑桁 下フランジ下面部【計写09】

【試験箇所 No.4】高欄部

⑤ 既存塗膜構成

【計写10】鈑桁: 腹板部 既存塗膜構成



鈑桁 腹板部 既存塗膜構成 既存塗膜厚: 140 μ m (平均)

塗装工程 《 試験箇所 既存塗膜構成図 》 5層目 長油性フタル酸樹脂塗料上塗(青) 4層目 新設 3層目 鈴丹さび止めペイント(鉛丹色) 2層目 報丹さび止めペイント(鉛丹色) 1層目 長ばく形エッチングプライマー(暗緑色) プラスト鋼板

【計写11】高欄部 既存塗膜構成



高欄部 既存塗膜構成 既存塗膜厚: 209 μ m (平均)

塗装工程		《試験箇所 既存塗膜構成図》(推測)
6層目	塗	長油性フタル酸樹脂塗料上塗(青)
5層目	替	長油性フタル酸樹脂塗料中塗(青)
4層目	新	長油性フタル酸樹脂塗料上塗(青)
3層目	設時	鉛丹さび止めペイント(鉛丹色)
2層目	塗	鉛丹さび止めペイント(鉛丹色)
1層目	装	長ばく形エッチングプライマー(暗緑色)
		ブラスト鋼板

株式会社 〇〇〇〇 御中

山一化学工業株式会社 剥 離 事 業 部

「バイオハクリX-WB」 工法 塗膜はく離試験結果まとめ

試験対象工事件名: 〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 ご発注 「〇〇橋 は〈離試験調査」

1. 試験結果一覧

		調査日		平成28年5 (試験:			平成28年((試験:			予備日		備	考				
		天候		晴	れ		晴	れ		-			【はく離試験実施時間】				
	気	温	51 XIII N± 88	20.1°C		10.00	21.9°C			-			1日目(5/31火):09:00~12:30 2日目(6/01木):09:00~12:30				
	湿	度	計測時間	69%		10:00	44%		10:00	-		_					
		調	査箇所			1エ	程目		2エ	程目			まとめ				
		試験部位		① 既存塗膜 平均膜厚 (μm)	死存塗膜 バイオハクリX-WB 残存塗膜 バイオハクリX-WB 残存塗膜 バイオハクリX-WB 塗腹型均膜厚 1回目塗付量 平均膜厚 2回目塗付量 平均膜厚 塗付量 重量		⑦ 塗膜回収 重量合計 (g)	8 バイオハクリX-WB 工法 適用・適否									
		① 腹板:	部 [°] ターンA)	143		1.0	6		_	ı	1	.0	111g/0.090m ³	適			
N o. 1	腹 板 部	② 腹板· (塗付ハ	部 [°] ターンB)	143		0.7	7		_	ı	0	.7	90g/0.090m ²	適			
		③ 腹板· (塗付ハ	部 [°] ターンC)	135	135		0.5 7		-	-	0	.5	63g/0.090m ² ≒ 700g/m ²	適(推奨)			
	下フェ	フ (塗付パターンA) ラ ン ② 腹板部 ジ (涂付パターンB)		1 100		165		1.0	6		_	1	1	.0	74g/0.090m ² ≒ 822g/m ²	適	
No. 2	フンジ下			152		0.7	5		_	ı	0	.7	$\begin{array}{l} 31g/0.090\text{m}^2\\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \end{array}$ $\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \$	適			
	· 面 部	③ 腹板· (塗付ハ	部 [°] ターンC)	148		0.5	5		-	1	0	.5	60g/0.090m ² ⇒ 667g/m ²	適(推奨)			
		① 腹板	部 [°] ターンA)	145		1.0	10		_	ı	1	.0	39g/0.048m ²	適			
No. 3	継手部	手	手	手	② 腹板	部 [°] ターンB)	112		0.7	10		_	-	0	.7	38g/0.048m ² ≒ 792g/m ²	適(推奨)
		③ 腹板部 (塗付パターンC		149		0.5	56		_	-	0	.5	24g/0.048m ² ≒ 500g/m ²	否			
		① 腹板	部 [°] ターンA)	204		1.0	5		-	_	1	.0	66g/0.050m ²	適			
No.4	高欄部	② 腹板· (塗付ハ	部 [°] ターンB)	193		0.7	5		-	-	0	.7	48g/0.050m ² ⇒ 960g/m ²	適			
		③ 腹板	部 [°] ターンC)	229		0.5	8		-	_	0	.5	44g/0.050m ² ≒ 880g/m ²	適(推奨)			

【試験区画面積】

No.1 鈑桁 腹板部0.30m(W) × 0.30m(W) = 0.090㎡No.2 鈑桁 下フランジ下面部0.30m(W) × 0.30m(W) = 0.090㎡No.3 鈑桁 継手部0.30m(W) × 0.16m(W) = 0.048㎡No.4 高欄部0.10m(W) × 0.50m(W) = 0.050㎡

【補足】

- (1) バイオハクリX-WB 工法 1工程:
 - ① バイオハクリX-WB 塗付 → ② 塗膜軟化養生時間経過 (バイオハクリX-WB 塗付後の放置時間) →
 - ③ 軟化塗膜のはく離除去 → ④ はく離した塗膜の回収/重量計測
- (2) 測定膜厚値: 試験箇所内の膜厚測定を5回行い平均値を測定値とした。
- (3) バイオハクリ-WB 塗付方法: 「刷毛塗り」
- (4) 塗付量管理方法:「重量計」を使用。
- (5) 軟化塗膜の除去方法:「刃付スクレーパー」を使用。
- (6) はく離した塗膜回収重量計測値:「回収塗膜と養生マスカー」を含む。

2. 推奨適性条件

- (1) 試験結果から「バイオハクリX-WB 工法」の適用が可能であると判断します。
 - ・下記に試験結果に基づく「バイオハクリX-WB」工法の適性条件を示します。
- (2)「バイオハクリX-WB 工法 適性条件」
 - ・本適性条件は、気象条件、施工条件のほか諸条件により実施工の際 異なる場合があります。
 - ・特に、工程 iii「バイオハクリX-WB 塗付後、塗膜が軟化状態となり 手工具により はく離除去可能となる時間(目安)」は 気温、鋼板面温度による影響を大きく受けます。

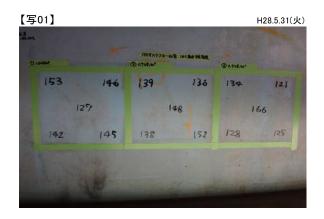
【留意事項】冬期低温時の施工について

気温 5℃以下の場合: 塗膜への浸透が著しく遅延します。(塗膜はく離剤が塗膜へ浸透し軟化する時間が遅延します。)

【推奨適性条件 No.1】 鈑桁 腹板部 (試験箇所 No.1 ③ 鈑桁 腹板部 試験結果に準じる)

工 程	バイオハクリX-WB 工法内訳	施エデータ	備考
i	施工実施回数	1工程	【パイオハクリX-WB 工法1工程】 塗付~塗膜軟化~塗膜はく離~回収
ii	塗付量	0.535 kg/㎡ (塗付時ロス率 7%含む)	【内訳】塗付量: 0.5 kg/㎡ + 塗付時ロス率 7%= 0.535 kg/㎡/回
iii	塗付後、塗膜が軟化状態となり 手工具ではく離除去可能となる時間(目安)	塗付後放置時間 24時間以上経過後	施工時の気温が冬期低温時の場合(5℃以下) 著しく遅延します。
iv	塗膜回収重量	63g/0.090 m ³ ≒ 700g/m ³	はく離回収塗膜 および 養生テープ含む
iv	バイオハクリX-WB工法による 塗膜はく離除去完了状態	% 1	試験結果写真【No.04】の状態

※1): 試験箇所の最下層塗膜は「長ばく形エッチングプライマー」(色相: 暗緑色) ブラスト鋼板面の凹部には手工具(刃付スクレーパーなど)では作用上除去出来ない塗膜が残存する状態。

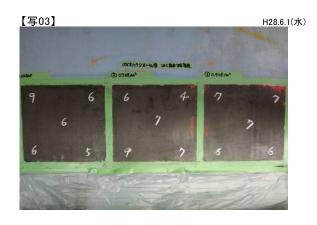


【試験箇所 No.1】鈑桁 腹板部 塗膜は<離作業前状態 左から 試験箇所

① 腹板部 既存塗膜厚: $143 \mu m$ ② 腹板部 既存塗膜厚: $143 \mu m$ ③ 腹板部 既存塗膜厚: $135 \mu m$

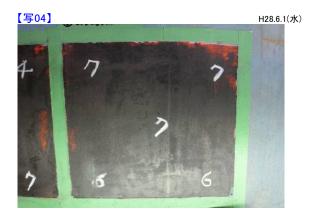


【試験箇所 No.1】 バイオハクリX -WB 塗付完了状態 左から 試験箇所



【試験箇所 No.1】飯桁 腹板部 塗膜は<離作業終了状態 左から 試験箇所

① 腹板部 (塗付パターンA) 残存塗膜厚: 6μm (平均) ② 腹板部 (塗付パターンB) 残存塗膜厚: 7μm (平均) 《推奨》③ 腹板部 (塗付パターンC) 残存塗膜厚: 7μm (平均)

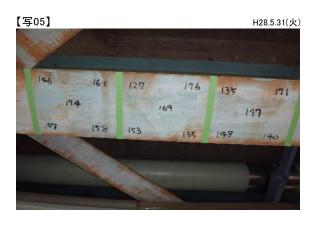


【試験箇所 No.1 ③】鈑桁 腹板部 (塗付パ゚ターンC) 残存塗膜厚: 7 μ m (平均)

【推奨適性条件 No.2】 鈑桁 下フランジ下面部 (試験箇所 No.2 ③ 鈑桁 下フランジ下部 試験結果に準じる)

工 程	バイオハクリX-WB 工法内訳	施エデータ	備考
i	施工実施回数	1工程	【パイオハクリX-WB 工法1工程】 塗付~塗膜軟化~塗膜はく離~回収
ii	塗付量	0.535 kg/㎡ (塗付時ロス率 7%含む)	【内訳】塗付量: 0.5 kg/㎡ + 塗付時ロス率 7%= 0.535 kg/㎡/回
iii	塗付後、塗膜が軟化状態となり 手工具ではく離除去可能となる時間(目安)	塗付後放置時間 24時間以上経過後	施工時の気温が冬期低温時の場合(5℃以下) 著しく遅延します。
iv	塗膜回収重量	63g/0.090 m ² ≒ 667g/m ²	はく離回収塗膜 および 養生テープ含む
iv	バイオハクリX-WB工法による 塗膜はく離除去完了状態	※ 2	試験結果写真【No.08】の状態

※2): 試験箇所の最下層塗膜は「長ばく形エッチングプライマー」(色相: 暗緑色) ブラスト鋼板面の凹部には手工具(刃付スクレーパーなど)では作用上除去出来ない塗膜が残存する状態。



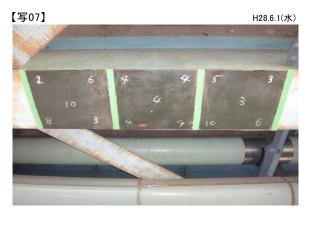
【試験箇所 No.2】鈑桁 下フランジ 下部 塗膜はく離作業前状態 左から 試験箇所

① 腹板部 既存塗膜厚: 165 μm ② 腹板部 既存塗膜厚: 152 μm ③ 腹板部 既存塗膜厚: 148 μm



【試験箇所 No.2】 バイオハクリX -WB 塗付完了状態 左から 試験箇所

① 腹板部 (塗付パターンA) 塗付量: 1.0kg/m²/回② 腹板部 (塗付パターンB) 塗付量: 0.7kg/m²/回③ 腹板部 (塗付パターンC) 塗付量: 0.5kg/m²/回





【試験箇所 No.2】鈑桁 下フランシ・下部 塗膜はく離作業終了状態【試験箇所 No.2 ③】鈑桁 下フランシ・下面部 (塗付パッターンC) 左から 試験箇所 残存塗膜厚: 5 μ m (平均)

① 腹板部 (塗付パターンA) 残存塗膜厚: 6 μ m (平均)
② 腹板部 (塗付パターンB) 残存塗膜厚: 5 μ m (平均)
《推奨》③ 腹板部 (塗付パターンC) 残存塗膜厚: 5 μ m (平均)

【推奨適性条件 No.3】 鈑桁 継手部 (試験箇所 No.3 ② 鈑桁 継手部 試験結果に準じる)

工程	バイオハクリX-WB 工法内訳	施エデータ	備考
i	施工実施回数	1工程	【パイオハクリX-WB 工法1工程】 塗付~塗膜軟化~塗膜はく離~回収
ii	塗付量	0.749 kg/㎡ (塗付時ロス率 7%含む)	【内訳】塗付量: 0.7 kg/㎡ + 塗付時ロス率 7%= 0.749 kg/㎡/回
iii	塗付後、塗膜が軟化状態となり 手工具ではく離除去可能となる時間(目安)	塗付後放置時間 24時間以上経過後	施工時の気温が冬期低温時の場合(5℃以下) 著しく遅延します。
iv	塗膜回収重量	38g/0.048 m ² ≒ 792g/m ²	はく離回収塗膜 および 養生テープ含む
iv	バイオハクリX-WB工法による 塗膜はく離除去完了状態	% 3	試験結果写真【No.12】の状態

※3): 試験箇所の最下層塗膜は「JIS K 5622 鉛丹さび止めペイント」(色相: 鉛丹色) 鋼板面の凹部には手工具(刃付スクレーパーなど)では作用上除去出来ない塗膜が残存する状態。



【試験箇所 No.3】 鈑桁 継手部 塗膜はく離作業前状態 上から 試験箇所

① 腹板部 既存塗膜厚: $145 \, \mu \, m$ ② 腹板部 既存塗膜厚: $112 \, \mu \, m$ ③ 腹板部 既存塗膜厚: $149 \, \mu \, m$



【試験箇所 No.3】 バイオハクリX -WB 塗付完了状態 左から 試験箇所

① 腹板部 (塗付パターンA) 塗付量: 1.0kg/m²/回② 腹板部 (塗付パターンB) 塗付量: 0.7kg/m²/回③ 腹板部 (塗付パターンC) 塗付量: 0.5kg/m²/回



【試験箇所 No.3】 鈑桁 継手部 塗膜はく離作業終了状態 左から 試験箇所

① 腹板部 (塗付パターンA) 残存塗膜厚: 10 μ m (平均) 《推奨》② 腹板部 (塗付パターンB) 残存塗膜厚: 10 μ m (平均) ③ 腹板部 (塗付パターンC) 残存塗膜厚: 56 μ m (平均)



【試験箇所 No.3 ②】鈑桁 継手部 (塗付パターンB) 残存塗膜厚: 10 μ m (平均)

【推奨適性条件 No.4】高欄部 (試験箇所 No.4 ③ 高欄部 試験結果に準じる)

工程	バイオハクリX-WB 工法内訳	施エデータ	備考
i	施工実施回数	1工程	【パイオハクリX-WB 工法1工程】 塗付~塗膜軟化~塗膜はく離~回収
ii	塗付量	0.535 kg/㎡ (塗付時ロス率 7%含む)	【内訳】塗付量: 0.5 kg/㎡ + 塗付時ロス率 7%= 0.535 kg/㎡/回
iii	塗付後、塗膜が軟化状態となり 手工具ではく離除去可能となる時間(目安)	塗付後放置時間 24時間以上経過後	施工時の気温が冬期低温時の場合(5℃以下) 著しく遅延します。
iv	塗膜回収重量	44g/0.050 m ² ≒ 880g/m ²	はく離回収塗膜 および 養生テープ含む
iv	バイオハクリX-WB工法による 塗膜はく離除去完了状態	※ 4	試験結果写真【No.14】の状態

※4): 試験箇所の最下層塗膜は「長ばく形エッチングプライマー」(色相: 暗緑色) ブラスト鋼板面の凹部には手工具(刃付スクレーパーなど)では作用上除去出来ない塗膜が残存する状態。



【試験箇所 No.4 ③】高欄部 塗膜はく離作業前 (塗付パターンC)

既存塗膜厚: 229 μ m (平均)



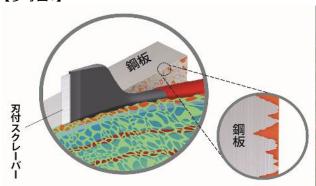
【試験箇所 No.4 ③】高欄部 塗膜はく離作業後 (塗付パターンC) 残存塗膜厚: 8 μ m (平均)

(3) 考察

- ・バイオハクリX-WB 工法 施工実施後「鋼鈑面の凹部」(アンカーパターン部)に塗膜が残存する状況について
 - ① 原因・理由

手工具(刃付きスクレーパー、皮スキなど)では作用上、鋼鈑面凹部に残存する塗膜は除去出来ない理由から「鋼鈑面の凹部」(アンカーパターン部)に塗膜が残存します。

【参考図1】



鋼板面凹部に残存する塗膜の状態

【参考写真1】



塗膜はく離作業後 ブラスト鋼板面の凹部に残存する塗膜 残存塗膜: 最下層塗膜 長ばく形エッチングプライマー(色相:暗緑色) 下塗1層目塗膜 鉛丹さび止めペイント(色相:鉛丹色)

② 検証:サンドペーパー#100 による鋼板面凹部に残存する塗膜除去性の確認

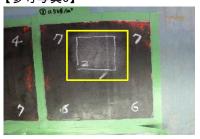
【参考写真2】



サント・ヘーハー # 100による面粗し実施 残存塗膜の除去程度を確認する 残存塗膜厚: 7 μ m (平均)

塗膜はく離作業終了状態

【参考写真3】



□枠内: サント、ヘ・ー・カー #100 面粗し実施結果 ※試験箇所の鋼板はブラスト処理鋼板

【参考写真4】



接写写真 残存塗膜厚: 2μm

③ 留意事項

・ バイオハクリX-WB 工法により塗膜はく離除去した後、残存した塗膜の除去方法、発錆部の除去方法 および 塗装される塗料に適する素地調整程度(グレード)の選定は当事者間で協議を行って下さい。

株式会社〇〇〇〇御中

試験件名 : 000 00000 00000 ご発注「00橋 は〈離試験調査」

試験実施日時 : 1日目 平成28年 5月31日(火) 09:00~12:30 : 2日目 平成28年6月1日(水) 09:00~12:30

試験条件 : バイオハクリX-WB 1回目塗付量: 0.5 kg/㎡/回 バイオハクリX-WB塗付後の軟化養生時間(放置時間): 24時間

《推奨施工条件》【試験箇所 No.1-③ 鈑桁 腹板部 】 バイオハクリX-WB塗付量: 0.5kg/㎡/回

山一化学工業株式会社 剥離事業部

試験 1日目: 平成28年 5月31日(火)

1. 試験対象橋梁 外景



橋梁名: 〇〇橋 外景

2. 橋歷板



架橋年月: 1978年3月(昭和53年)

3. 塗膜構成の確認



剥離対象塗膜: A塗装系(新設時)

上塗塗膜 : 長油性フタル酸樹脂塗料上塗 中塗塗膜 : 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 下塗塗膜 : 鉛丹さび止めペイント

下塗塗膜 : 長ばく形エッチングプライマー 鋼板面状態: ブラスト処理鋼板 新設時から塗装塗替えなし

4. 試験部位



試験部位: 鈑桁 腹板部

左から No.1-① 腹板部 既存塗膜厚: 143 μ m

No.1-② 腹板部 既存塗膜厚: 143 μ m No.1-③ 腹板部 既存塗膜厚: 135 μ m

5. 試験箇所の状態



③ 腹板部 既存塗膜厚: 135 µ m

試験区画面積: 0.30m(W)×0.30m(W) = 0.090m

9. パイオハクリX-WB 塗付完了状態 (1回目)

6. 既存膜厚測定



既存塗膜の膜厚測定 使用機器:電磁式デジタル膜厚計

7. パイオハクリX-WB 塗付 (1回目)



バイオハクリX-WB (鋼構造物用 水系塗膜はく離剤)

塗付方法: 刷毛塗り **拳付量確認方法:** 重量管理法

試験区画面積: 0.090m 試験区画への塗付量: 0.5 kg/m 試験区画への塗付量: 0.5 kg/m² (≒ 45g/0.04m²)

8. 塗付量確認 (1回目)



試験区画への塗付量確認(1回目) 塗付量: 0.5kg/m² (≒ 45g/0.090m²)

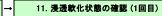


バイオハクリX-WB 塗付完了状態(1回目) 塗付量: 0.5kg/m³ (≒ 45g/0.090m³)



接写

10. 塗付後 24時間経過状態 (1回目)



12. 塗膜はく離作業 (1回目)

14. 塗膜はく離除去作業完了状態 (1回目)



バイオハクリX-WB 塗付量: 0.5kg/m²



接写



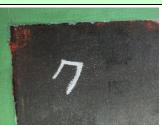
塗膜の軟化状態の確認 皮スキなどで塗膜の軟化状態を確認する。



塗膜はく離作業(1回目) 使用工具: 刃付スクレーパー



塗膜はく離除去作業完了状態 残存膜厚: 7μm(平均)



接写

【バイオハクリX一WB工法による塗膜はく離完了状態】

塗付後 24時間経過状態(1回目)





はく離除去塗膜の回収状態 = 「湿潤シート状態」



はく離回収した塗膜重量測定状態 $63g/0.090 \, \text{m}^2 \doteq 700g/\, \text{m}^2$

はく離試験箇所の補修状況



補修用塗料: 水系塗料

【検討】: サンドペーパー#100 による鋼板面凹部に残存する塗膜の除去程度の確認



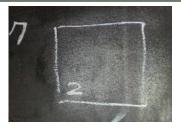
【バイオハクリX一WB工法による塗膜はく離完了状態】



塗膜はく離除去後の鋼板面に対して



面粗し処理実施後の状態 サンドペーパー#100 による面粗しを実施する □枠内: サンドペーパー#100 による面粗し実施箇所



サント・ヘーハー#100 による面粗し実施結果 □枠内: 膜厚測定値 2μm



接写① 接写② 【結果】サントへーハー井100による面粗し実施結果から 刃付スクレーパー(手工具)では作用上「黒皮鋼板面凹部」の残存塗膜は除去できない。 サントペーパー#100 による面粗し実施結果から残存した塗膜 は ブラスト処理、動力工具処理 で

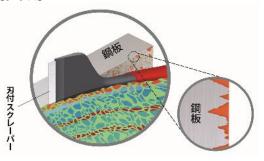
除去することが可能であると判断します。 ※ 下記【留意事項】をご参照下さい。



【検討結果まとめ】

- (1) 残存塗膜の状態・残存塗膜の除去方法について
 - ① 残存した塗膜・部位
 - ・残存した塗膜:最下層塗膜「長ばく形エッチングプライマー」塗膜(色相:暗緑色)
 - ・残存した部位:ブラスト鋼板面の凹部
 - ② 原因•理由
 - ・手工具(刃付スクレーパー、皮スキなど) では作用上 鋼板面の凹部(アンカーパターン)に残存する塗膜は除去できないため、鋼板面の凹部(アンカーパターン)に塗膜が残存する。
 - ③ 鋼板面の凹部(アンカーパターン)に残存する塗膜の除去方法
 - ・バイオハクリX-WB工法 施工実施箇所に残存した塗膜は、バイオハクリX-WB(塗膜はく離剤)により浸透・軟化した後、乾燥した物質「塗膜付着性阻害物質」と考えます。 本残存物上に塗装を行なった場合、なんらかの不具合が生じる可能性が予見されます。
 - ・バイオハクリX-WB工法 施工実施筒所に残存した塗膜は、ブラスト処理 または 電動工具(ディスクサンダーなど)で除去して下さい。
- (2)【留意事項】バイオハクリX-WB工法により塗膜をはく離除去した後、必ず塗装する塗料に適した素地調整を行なって下さい。
 - ※ バイオハクリX-WB工法により塗膜はく離除去した後、残存した塗膜の除去方法 及び 塗装される塗料に適する素地調整程度(グレード)の選定は当事者間で協議を行って下さい。

【参考 図】



【参考 写真】



例) はく離作業後 ブラスト処理鋼板面の凹部に残存する塗膜の状態

左側: 塗膜はく離作業後、ブラスト処理板面の凹部に塗膜が残存している状態。

右側: 塗膜はく離作業後、サンドへーパーによる面荒し実施結果。

鋼鈑面の凹部には残存塗膜が見受けられず、鋼鈑面が露出した状態。

株式会社〇〇〇〇 御中

試験件名 : 〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 ご発注「〇〇橋 は〈離試験調査」

試験実施日時 : 1日目 平成28年5月31日(火) 09:00~12:30 : 2日目 平成28年6月1日(水) 09:00~12:30

試験条件: バイオハクリX-WB 1回目塗付量: 0.5 kg/m²/回 バイオハクリX-WB塗付後の軟化養生時間(放置時間): 24時間

《推奨施工条件》【試験箇所 №.2-③ 飯桁 下フランジ下面部 】 パイオックリX-WB塗付量: 0.5kg/㎡/回

山一化学工業株式会社 剥離事業部

試験 1日目: 平成28年 5月31日(火)

1. 試験対象橋梁 外景



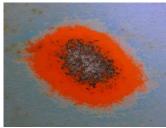
橋梁名: 〇〇橋 外景

2. 橋歴板



架橋年月: 1978年3月(昭和53年)

3. 塗膜構成の確認



剥離対象塗膜: A塗装系(新設時)

鋼板面状態: ブラスト処理鋼板 新設時から塗装塗替えなし

4. 試験部位



試験部位: 鈑桁 下フランジ下面部

左から No 2-(1) 下フ

No.2-① 下フランジ 下面部 既存塗膜厚: 165 μ m No.2-② 下フランジ 下面部 既存塗膜厚: 152 μ m No.2-③ 下フランジ 下面部 既存塗膜厚: 148 μ m

5. 試験箇所の状態



③ 下フランジ下面部 既存塗膜厚: 148 μ m



既存塗膜厚: 148μm 接 試験区画面積: 0.30m(W)×0.30m(W) = 0.090㎡

6. 既存膜厚測定



既存塗膜の膜厚測定 使用機器:電磁式デジタル膜厚計

7. パイオハクリX-WB 塗付 (1回目)



バイオハクリX-WB(鋼構造物用 水系塗膜はく離剤)

塗付方法: 刷毛塗り 塗付量確認方法: 重量管理法

試験区画面積: 0.090㎡ 試験区画への塗付量: 0.5 kg/㎡ 試験区画への塗付量: 0.5 kg/㎡ (≒ 45g/0.04㎡)

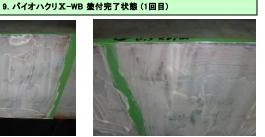
8. 塗付量確認(1回目)



試験区画への塗付量確認 (1回目) 塗付量: 0.5kg/m² (≒ 45g/0.090m²)



バイオハクリX-WB 塗付完了状態(1回目) 塗付量: 0.5kg/m^d (≒ 45g/0.090m^d)



接写

10. 塗付後 24時間経過状態 (1回目)



バイオハクリX-WB 塗付量: 0.5kg/m² 塗付後 24時間経過状態(1回目)



接 写

11. 浸透軟化状態の確認 (1回目)



塗膜の軟化状態の確認 皮スキなどで塗膜の軟化状態を確認する。

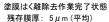
12. 塗膜はく離作業 (1回目)



塗膜はく離作業(1回目) 使用工具: 刃付スクレーパー

14. 塗膜はく離除去作業完了状態 (1回目)







接写

【バイオハクリX一WB工法による塗膜はく離完了状態】

15. はく離除去塗膜の回収状態(1回目)



はく離除去塗膜の回収状態 ≒「湿潤シート状態」

16. 塗膜回収重量測定



はく離回収した塗膜重量測定状態 60g/0.090㎡ = 667g/㎡

はく離試験箇所の補修状況

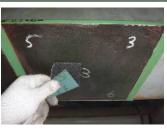


補修用塗料: 水系塗料

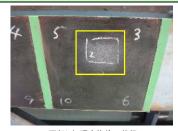
【検討】: サンドペーパー#100 による鋼板面凹部に残存する塗膜の除去程度の確認



【バイオハクリX一WB工法による塗膜はく離完了状態】 残存膜厚: 5μm(平均)



塗膜はく離除去後の鋼板面に対して サンドペーパー#100 による面粗しを実施する 口枠内: サンドペーパー#100 による面粗し実施箇所



面粗し処理実施後の状態



サント、ヘーハー井100による面粗し実施結果 □枠内: 膜厚測定値 2μm



接写① 接写② 【結果】サントへーハー井100による面粗し実施結果から 刃付スクレーパー(手工具)では作用上「黒皮鋼板面凹部」の残存塗膜は除去できない。

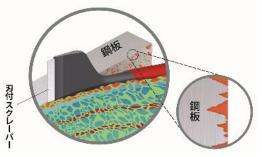
サントペーパー#100 による面粗し実施結果から残存した塗膜 は ブラスト処理、動力工具処理 で

除去することが可能であると判断します。 ※ 下記【留意事項】をご参照下さい。

【検討結果まとめ】

- (1) 残存塗膜の状態・残存塗膜の除去方法について
 - ① 残存した塗膜・部位
 - ・残存した塗膜:最下層塗膜「長ばく形エッチングプライマー」塗膜(色相:暗緑色)
 - ・残存した部位:ブラスト鋼板面の凹部
 - ② 原因•理由
 - ・手工具(刃付スクレーパー、皮スキなど) では作用上 鋼板面の凹部(アンカーパターン)に残存する塗膜は除去できないため、鋼板面の凹部(アンカーパターン)に塗膜が残存する。
 - ③ 鋼板面の凹部(アンカーパターン)に残存する塗膜の除去方法
 - ・バイオハクリX-WB工法 施工実施箇所に残存した塗膜は、バイオハクリX-WB(塗膜はく離剤)により浸透・軟化した後、乾燥した物質「塗膜付着性阻害物質」と考えます。 本残存物上に塗装を行なった場合、なんらかの不具合が生じる可能性が予見されます。
 - ・バイオハクリX-WB工法 施工実施筒所に残存した塗膜は、ブラスト処理 または 電動工具(ディスクサンダーなど)で除去して下さい。
- (2)【留意事項】バイオハクリX-WB工法により塗膜をはく離除去した後、必ず塗装する塗料に適した素地調整を行なって下さい。
 - ※ バイオハクリX-WB工法により塗膜はく離除去した後、残存した塗膜の除去方法 及び 塗装される塗料に適する素地調整程度(グレード)の選定は当事者間で協議を行って下さい。

【参考 図】



【参考 写真】



例) はく離作業後 ブラスト処理鋼板面の凹部に残存する塗膜の状態

左側: 塗膜はく離作業後、ブラスト処理板面の凹部に塗膜が残存している状態。

右側: 塗膜はく離作業後、サンドへーパーによる面荒し実施結果。

鋼鈑面の凹部には残存塗膜が見受けられず、鋼鈑面が露出した状態。

株式会社〇〇〇〇

試験件名 : 000 00000 00000 ご発注「00橋 は〈離試験調査」

試験実施日時 : 1日目 平成28年 5月31日(火) 09:00~12:30 : 2日目 平成28年6月1日(水) 09:00~12:30

試験条件 : バイオハクリX-WB 1回目塗付量: 0.7 kg/m³/回 バイオハクリX-WB塗付後の軟化養生時間(放置時間): 24時間

《推奨施工条件》【試験箇所 No.3-② 鈑桁 継手部 】 パイオハクリX-WB塗付量: 0.7kg/㎡/回

山一化学工業株式会社 剥離事業部

試験 1日目: 平成28年 5月31日(火)

1. 試験対象橋梁 外景



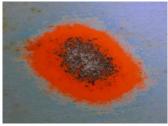
橋梁名: OOO橋 外景

2. 橋歷板



架橋年月: 1978年3月(昭和53年)

3. 塗膜構成の確認



剥離対象塗膜: A塗装系(新設時)

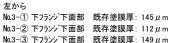
上塗塗膜 : 長油性フタル酸樹脂塗料上塗 中塗塗膜 : 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 下塗塗膜 : 鉛丹さび止めペイント

鋼板面状態: ブラスト処理鋼板 新設時から塗装塗替えなし

4. 試験部位



試験部位: 鈑桁 継手部



5. 試験箇所の状態



② 継手部 既存塗膜厚: 149 μ m



試験区画面積: 0.30m(W)×0.16m(W) = 0.048m²

6. 既存膜厚測定



既存塗膜の膜厚測定 使用機器:電磁式デジタル膜厚計

7. パイオハクリX-WB 塗付 (1回目)



バイオハクリX-WB (鋼構造物用 水系塗膜はく離剤)

塗付方法: 刷毛塗り 塗付量確認方法: 重量管理法 試験区画面積: 0.048㎡ 試験区画への塗付量: 0.7 kg/㎡ 試験区画への塗付量: 0.7 kg/m² (≒ 34g/0.048m²)

8. 塗付量確認(1回目)



試験区画への塗付量確認(1回目) 塗付量: 0.7kg/m² (≒ 34g/0.048m²)



バイオハクリX-WB 塗付完了状態(1回目) 塗付量: 0.7kg/m³ (≒ 34g/0.048m³)



接写

山一化学工業株式会社 剥離事業部

試験 2日目: 平成28年 6月 1日(水)

10. 塗付後 24時間経過状態 (1回目)



接 写

11. 浸透軟化状態の確認 (1回目)



塗膜の軟化状態の確認 皮スキなどで塗膜の軟化状態を確認する。

12. 塗膜はく離作業 (1回目)



塗膜はく離作業(1回目) 使用工具: 刃付スクレーパー

14. 塗膜はく離除去作業完了状態 (1回目)



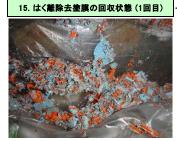
塗膜はく離除去作業完了状態 残存膜厚: 10 μ m (平均)



接写

【バイオハクリX一WB工法による塗膜はく離完了状態】

バイオハクリX-WB 塗付量: 0.7kg/m² 塗付後 24時間経過状態(1回目)



はく離除去塗膜の回収状態 ≒「湿潤シート状態」

16. 塗膜回収重量測定



はく離回収した塗膜重量測定状態 $38g/0.048 \, \text{m}^2 \doteq 792g/\, \text{m}^2$

はく離試験箇所の補修状況

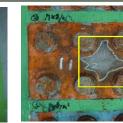


補修用塗料: 水系塗料

【検討】: サンドペーパー#100 による鋼板面凹部に残存する塗膜の除去程度の確認















【バイオハクリX一WB工法による塗膜はく離完了状態】 残存膜厚: 10 μm (平均)

塗膜はく離除去後の鋼板面に対して

面粗し処理実施後の状態 サンドペーパー#100 による面粗しを実施する □枠内: サンドペーパー#100 による面粗し実施箇所

サント・ヘーハー#100 による面粗し実施結果 □枠内: 膜厚測定値 2μm

【結果】サントへーハー井100による面粗し実施結果から

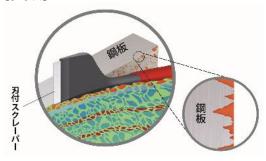
刃付スクレーパー(手工具)では作用上「黒皮鋼板面凹部」の残存塗膜は除去できない。 サントペーパー#100 による面粗し実施結果から残存した塗膜 は ブラスト処理、動力工具処理 で 除去することが可能であると判断します。

※ 下記【留意事項】をご参照下さい。

【検討結果まとめ】

- (1) 残存塗膜の状態・残存塗膜の除去方法について
 - ① 残存した塗膜・部位
 - ・ 残存した塗膜: 最下層塗膜「鉛丹さび止めペイント」塗膜(色相: 鉛丹色)
 - ・残存した部位:ブラスト鋼板面の凹部
 - ② 原因•理由
 - ・手工具(刃付スクレーパー、皮スキなど) では作用上 鋼板面の凹部(アンカーパターン)に残存する塗膜は除去できないため、鋼板面の凹部(アンカーパターン)に塗膜が残存する。
 - ③ 鋼板面の凹部(アンカーパターン)に残存する塗膜の除去方法
 - ・バイオハクリX-WB工法 施工実施箇所に残存した塗膜は、バイオハクリX-WB(塗膜はく離剤)により浸透・軟化した後、乾燥した物質「塗膜付着性阻害物質」と考えます。 本残存物上に塗装を行なった場合、なんらかの不具合が生じる可能性が予見されます。
 - ・バイオハクリX-WB工法 施工実施筒所に残存した塗膜は、ブラスト処理 または 電動工具(ディスクサンダーなど)で除去して下さい。
- (2)【留意事項】バイオハクリX-WB工法により塗膜をはく離除去した後、必ず塗装する塗料に適した素地調整を行なって下さい。
 - ※ バイオハクリX-WB工法により塗膜はく離除去した後、残存した塗膜の除去方法 及び 塗装される塗料に適する素地調整程度(グレード)の選定は当事者間で協議を行って下さい。

【参考 図】



【参考 写真】



例) はく離作業後 ブラスト処理鋼板面の凹部に残存する塗膜の状態

左側: 塗膜はく離作業後、ブラスト処理板面の凹部に塗膜が残存している状態。

右側: 塗膜はく離作業後、サンドへーパーによる面荒し実施結果。

鋼鈑面の凹部には残存塗膜が見受けられず、鋼鈑面が露出した状態。

株式会社〇〇〇〇 御中

試験件名 : 〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 ご発注「〇〇橋 は〈離試験調査」

試験実施日時 : 1日目 平成28年5月31日(火) 09:00~12:30 : 2日目 平成28年6月1日(水) 09:00~12:30

試験条件 : バイオハクリX-WB 1回目塗付量: 0.5 kg/m²/回 バイオハクリX-WB塗付後の軟化養生時間(放置時間): 24時間

《推奨施工条件》【試験箇所 No.4-③ 高欄部 】 パイオハクリX-WB塗付量: 0.5kg/㎡/回

山一化学工業株式会社 剥離事業部

試験 1日目: 平成28年 5月31日(火)

1. 試験対象橋梁 外景



橋梁名: 〇〇〇橋 外景

2. 橋歴板



架橋年月: 1978年3月(昭和53年)

3. 塗膜構成の確認



剥離対象塗膜: A塗装系(新設時)

上塗塗膜 : 長油性フタル酸樹脂塗料上塗 中塗塗膜 : 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 下塗塗膜 : 鉛丹さび止めペイント 下塗塗膜 : 長ばく形エッチングプライマー

鋼板面状態:ブラスト処理鋼板 新設時から塗装塗替えなし

4. 試験部位



試験部位: 高欄部

左から

No.4-③ 高欄部 既存塗膜厚: 229 µ m

5. 試験箇所の状態



③ 高覧部 既存塗膜厚; 229 μ m



按 =

試験区画面積: 0.10m(W)×0.50m(W) = 0.050m

6. 既存膜厚測定



既存塗膜の膜厚測定 使用機器:電磁式デジタル膜厚計

7. パイオハクリX-WB 塗付 (1回目)



バイオハクリX-WB(鋼構造物用 水系塗膜はく離剤)

塗付方法: 刷毛塗り 塗付量確認方法: 重量管理法

試験区画面積: 0.050㎡ 試験区画への塗付量: 0.5 kg/㎡ 試験区画への塗付量: 0.5 kg/㎡ (≒ 25g/0.050㎡)

8. 塗付量確認(1回目)



試験区画への塗付量確認 (1回目) 塗付量: 0.5kg/m² (≒ 25g/0.050m²)

9. パイオハクリX-WB 塗付完了状態 (1回目)



バイオハクリX-WB 塗付完了状態(1回目) 塗付量: 0.5kg/m^d (≒ 25g/0.050m^d)



接写

10. 塗付後 24時間経過状態 (1回目)



バイオハクリX-WB 塗付量: 0.5kg/m[®] 塗付後 24時間経過状態(1回目)



11. 浸透軟化状態の確認 (1回目)



塗膜の軟化状態の確認 皮スキなどで塗膜の軟化状態を確認する。

12. 塗膜はく離作業 (1回目)



塗膜はく離作業(1回目) 使用工具: 刃付スクレーパー

14. 塗膜はく離除去作業完了状態 (1回目)



塗膜は<離除去作業完了状態 残存膜厚: 8μm(平均)



接写

【バイオハクリX一WB工法による塗膜はく離完了状態】

15. はく離除去塗膜の回収状態 (1回目)



はく離除去塗膜の回収状態 ≒「湿潤シート状態」

16. 塗膜回収重量測定

接 写



はく離回収した塗膜重量測定状態 44g/0.050㎡ = 880g/㎡

はく離試験箇所の補修状況



補修用塗料: 水系塗料

【検討】: サンドペーパー#100 による鋼板面凹部に残存する塗膜の除去程度の確認







塗膜はく離除去後の鋼板面に対して



面粗し処理実施後の状態 サンドペーパー#100 による面粗しを実施する 口枠内: サンドペーパー#100 による面粗し実施箇所



サント・ヘーハー#100 による面粗し実施結果 □枠内: 膜厚測定値 2μm



※ 下記【留意事項】をご参照下さい。

接写①



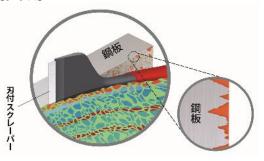
接写②

【結果】サントヘーパー#100による面粗し実施結果から 刃付スクレーパー(手工具)では作用上「黒皮鋼板面凹部」の残存塗膜は除去できない。 サントペーパー#100 による面粗し実施結果から残存した塗膜 は ブラスト処理、動力工具処理 で 除去することが可能であると判断します。

【検討結果まとめ】

- (1) 残存塗膜の状態・残存塗膜の除去方法について
 - ① 残存した塗膜・部位
 - ・残存した塗膜:最下層塗膜「長ばく形エッチングプライマー」塗膜(色相:暗緑色)
 - ・残存した部位:ブラスト鋼板面の凹部
 - ② 原因•理由
 - ・手工具(刃付スクレーパー、皮スキなど) では作用上 鋼板面の凹部(アンカーパターン)に残存する塗膜は除去できないため、鋼板面の凹部(アンカーパターン)に塗膜が残存する。
 - ③ 鋼板面の凹部(アンカーパターン)に残存する塗膜の除去方法
 - ・バイオハクリX-WB工法 施工実施箇所に残存した塗膜は、バイオハクリX-WB(塗膜はく離剤)により浸透・軟化した後、乾燥した物質「塗膜付着性阻害物質」と考えます。 本残存物上に塗装を行なった場合、なんらかの不具合が生じる可能性が予見されます。
 - ・バイオハクリX-WB工法 施工実施筒所に残存した塗膜は、ブラスト処理または 電動工具(ディスクサンダーなど)で除去して下さい。
- (2)【留意事項】バイオハクリX-WB工法により塗膜をはく離除去した後、必ず塗装する塗料に適した素地調整を行なって下さい。
 - ※ バイオハクリX-WB工法により塗膜はく離除去した後、残存した塗膜の除去方法 及び 塗装される塗料に適する素地調整程度(グレード)の選定は当事者間で協議を行って下さい。

【参考 図】



【参考 写真】



例) はく離作業後 ブラスト処理鋼板面の凹部に残存する塗膜の状態

左側: 塗膜はく離作業後、ブラスト処理板面の凹部に塗膜が残存している状態。

右側: 塗膜はく離作業後、サンドへーパーによる面荒し実施結果。

鋼鈑面の凹部には残存塗膜が見受けられず、鋼鈑面が露出した状態。